

日本スポーツ社会学会会報

Sport Sociology

第19号

目次

第7回大会プログラムのご案内……	1
研究委員会からのお知らせ……	9
編集委員会からのお知らせ……	9
国際交流委員会からのお知らせ……	11
事務局からのお知らせ……	20
国際スポーツ社会学会の報告……	21
アジアスポーツ社会学会の報告……	23
研究通信……	27
新入会員 / 住所・所属変更……	29

日本スポーツ社会学会
Japan Society of Sport Sociology
事務局：奈良女子大学 1998.2

第7回学会大会プログラムのご案内

●基調講演

1. 日時 : 3月26日(木) 午後1時30分~2時45分
2. 場所 : B202 (大講義室)
3. テーマ : 「21世紀の自由時間社会へ向けて」
4. 演者 : 石森秀三 (国立民族学博物館教授: 観光人類学)

●公開シンポジウム

1. 日時 : 3月26日(木) 午後3時~5時
2. 場所 : B202 (大講義室)
3. テーマ : 「転換期のスポーツと社会」
4. パネリスト: 森川貞夫 (日本体育大学)
野川春夫 (鹿屋体育大学)
金光千尋 (オリックス・ブルーウェーブ球団)

コーディネーター 山口泰雄 (神戸大学)

<趣旨>

わが国のスポーツ制度は、現在、転換期を迎えている。地域や学校、企業やプロスポーツ界においては、これまでのシステムが制度疲労に陥り、多様な問題が顕在化している。例えば、中学校のスポーツ部活動においては、少子化の影響により、集団スポーツの部員数が不足し、大会出場ができないところが出てきている。そこで、文部省の補助事業により、複数の中学校が集まる総合型地域スポーツクラブでチームを編成している地域があるが、中体連の規則である「1校1チーム登録制」により、中体連の大会には出場できない。また、民間のスポーツクラブに所属し、活動を続けていながら、学校名で出場している種目も少なくない。

国体出場は日本国籍を持つことがルールになっており、在日外国人には出場の道が閉ざされている。また、競技スポーツの世界においては、プロ化が進み、バレーボールやバスケットボールにおいても、プロ選手が誕生している。プロ野球界においてはここ数年、大リーグへの移籍問題が続いており、スポーツのグローバル化に伴う問題が生まれている。

スポーツ社会学は、これまでスポーツの世界におけるリアリティを記述し、現象を説明し、解釈を行ってきた。本シンポジウムは、転換期にあるスポーツの制度疲労を明らかにし、社会問題となっているメカニズムを浮き彫りにする。さらに、21世紀のスポーツの発展を目指して、制度疲労を乗り越えるビジョンを議論し、提起したい

●ポスター発表

1. 日時 : 3月26日(木) 正午~午後1時30分
 2. 場所 : A会場 (254 演習室) ・ B会場 (260 教室)
- ・ A会場 (254 演習室)
1. 12:15 ~ 12:45

「生涯スポーツイベントの誘致距離 —ウォーキングイベントを事例に—」
横井 康博 久保 和之(中京大学大学院)

杉本厚夫編

スポーツ文化の社会学

「観ているのか」「魅せられているのか、それとも「視られている」のか」「スポーツファン」の視線からスポーツ文化を読み解いた好著

ジヤネット・リーヴァー著 亀山佳明・西山けい子訳

サッカー狂の社会学

●ブラジルの社会とスポーツ ワールドカップを四度制覇したブラジル・サッカーの強さの秘密を社会学の視点から考察した貴重な一冊

伊藤公雄・牟田和恵編

ジハードと社会学

「生れる」から「死ぬ」までの身近な出来事を問い直し、そこにひそむ性差の圧力を浮かび上がらせる。斬新な視点による社会学のテクニク

谷岡一郎・仲村祥一編

ギャンブルの社会学

人はなぜ賭けるのか—人の歴史あるところ賭博の歴史あり。多様な視点からギャンブルを縦横に考察したユニークな論集

宮原浩一郎・荻野昌弘編

変身の社会学

フィクションの中のヒーロー・主婦・躁鬱の人・詐欺師—周囲を驚かす突然の変わり身を分析し、新しい存在論としての社会学を提示する

一八九三円

二二二三円

一八〇〇円

二二〇〇円

二二〇〇円

杉本厚夫著

1893円
スポーツ文化の変容

●多様化と画一化の文化秩序 文化装置としてのスポーツが発信するメッセージを読み解いた労作

亀山佳明編

1631円
スポーツの社会学

プロ野球、マラソン、ゴルフ、相撲等を通して、新たな視点からスポーツの「意味」をさぐる

井上 俊編

1893円
現代文化を学ぶ人のために

「都市、消費、情報、国際化」という基本的視点のもとに、多彩なテーマを通して現代文化を解説

江刺正吾・小椋 博編

1893円
高校野球の社会学

●甲子園を読む 文化社会学的な視点から高校野球を考察し、甲子園「神話」の深層に迫る

M・チクセントミハイ著 今村浩明訳

2427円
フロー体験 喜びの現象学

幸福、喜び、楽しさ、最適経験などの現象学的課題の本質を多様な視点から解明した労作

G・ウォルフオード著 竹内 洋・海部優子訳

3786円
パブリック・スクールの社会学

●英国エリート教育の内幕 生徒、教師、寮母らの喜怒哀楽とサバイバル戦略を生き生きと描出

世界思想社

京都市左京区岩倉南桑原町56
☎075(721)6506<消費税別>

- 2、 12:30 ~ 13:00
 「地域スポーツイベントにおけるボランティア活動の期待と満足の因子構造」
 赤堀 方哉(神戸大学大学院) 山口 泰雄(神戸大学) 高見 栄喜(神戸大学大学院)

・ B会場 (260教室)

- 1、 12:15 ~ 12:45
 「ソフトテニスの普及・発展要因と今日的課題について」
 大山 幸成 (和歌山大学大学院)
- 2、 12:30 ~ 13:00
 「一流校選手にみるスポーツへの社会化要因—チームスポーツに着目して—」
 久保 和之(中京大学大学院) 川西 正志(鹿屋体育大学)
- 3、 12:45 ~ 13:15
 「フィリピン・プロ・バスケットボール —歴史と運営—」
 天野 郡壽(神戸大学)

●理 事 会

1. 日 時 : 3月26日(木) 午前11時30分から
 2. 場 所 : 220大会議室

●総 会

1. 日 時 : 3月26日(木) 午後5時~6時
 2. 場 所 : B202 (大講義室)

●懇 親 会

1. 日 時 : 3月26日(木) 午後6時~7時30分
 2. 場 所 : 220大会議室

●一 般 発 表

1. 日 時 : 3月27日(金) 午前9時~10時・午後2時30分~4時30分
 2. 場 所 : A会場(256教室)・B会場(264教室)
 3. 発表時間: 1演題の発表時間20分、質疑応答10分。

・ A会場 (256教室)

- 1、 9:00
 「センターコートの神話 —スポーツ・イベントのステイタス生成のメカニズム」
 矢島 万沙未(明海大学)
- 2、 9:30
 「伝統スポーツにおける暴力問題と共同体の変容 —フィレンツェにおけるカルチョ・ストリコー」
 鈴木 守(上智大学)

- 3、 14:30
 「ボクシングファンの研究 —あるフィリピン人ボクサーと大阪のファンとの関係から—」
 高畑 幸(大阪市立大学大学院)

- 4、 15:00
 「一流競技者にみる操作的越境について」
 千葉 直樹(横浜国立大学大学院)

- 5、 15:30
 「地域住民へのスポーツ振興に関する事例研究 —鹿児島県樋脇町のホッケーについて—」
 前田 博子(鹿屋体育大学)

- 6、 16:00
 「成人女性のスポーツ実施に関する研究 —実施レベルの観点から—」
 工藤 保子(笹川スポーツ財団)

・ B会場 (264教室)

- 1、 9:00
 「プラスチック場面からみたスポーツ」
 加藤 朋之(山梨大学)

- 2、 9:30
 「男らしさからみたスポーツ I —男性学の視点から—」
 大東 貢生(佛教大学大学院)

- 3、 14:30
 「北海道における「歩くスキー」の確立 —社会と自然を媒介するスキー—」
 前田 和司(北海道教育大学旭川校)

- 4、 15:00
 「バイエルン州におけるグリーンツーリズムの展開と余暇行動」
 笠木 秀樹(美作女子大学)

- 5、 15:30
 「韓国におけるスキー・リゾートブームへの警鐘」
 鄭 守皓(筑波大学大学院)

●アジアセッション

1. 日 時 : 3月27日(金) 午前10時5分~11時5分
 2. 場 所 : B202 (大講義室)
 3. 発表者 : 中国と韓国からの発表が予定されています。

●ミニシンポジウム

1. 日時 : 3月27日(金) 午前11時10分~午後12時30分
2. 場所 : A会場(256教室)・B会場(264教室)
3. テーマ : A会場「スポーツ批評」

演者: 平井 肇(滋賀大学)、永澄憲史(京都新聞)
 コーディネーター 亀山佳明(龍谷大学)

B会場「スポーツと地域開発」

演者: 三本松正敏(福岡教育大学)、川西正志(鹿屋体育大学)
 コーディネーター 永吉宏英(大阪体育大学)

●ラウンドテーブル・セッション

1. 日時 : 3月27日(金) 午後12時40分~午後1時30分
2. 場所 : 220大会議室
3. テーマ : 「スポーツ社会学教育」

コーディネーター 小椋 博(香川大学)

●特別講演

1. 日時 : 3月27日(金) 午後1時30分~午後2時30分
2. 場所 : B202(大講義室)
3. 講演者 : マクガイヤー(ラフボロー大学)

●文献資料コーナー

1. 日時 : 3月26日(木) 正午~3時
 3月27日(金) 正午~1時30分
2. 場所 : 252演習室

… 会場へのアクセス …

1. 場所 : 神戸大学発達科学部(兵庫県神戸市灘区鶴甲3-11)
2. 交通機関: JR六甲道駅、阪急六甲駅または阪神御影駅より神戸市バス36番鶴甲団地行きに乗車して、神戸大学発達科学部前にて下車、徒歩1分。

… 事務局からのお知らせ …

当日参加も受け付けます。懇親会などの準備のため、できるだけ事前に申し込んでください。4月5日に明石海峡大橋(パールブリッジ)が開通し、学会大会の頃はいろいろなイベントが予定されています。

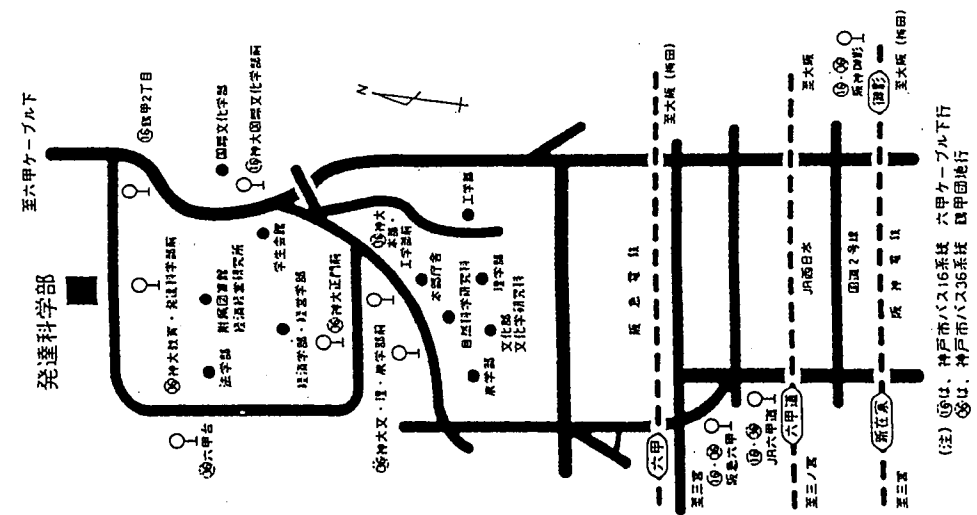
・大会組織委員会事務局および連絡先

ご不明の点がございましたら、下記までメールを頂ければ幸いです。

- 神吉賢一(委員長) : Tel&Fax (078)803-0901
 山口泰雄(事務局長) : Tel&Fax (078)803-0904; yasuo@main.h.kobe-u.ac.jp
 天野郡壽(幹事) : Tel&Fax (078)803-0818; amano@cs.cla.kobe-u.ac.jp
 齋藤健司(幹事) : Tel&Fax (078)803-1308; ksaito@kobe-u.ac.jp

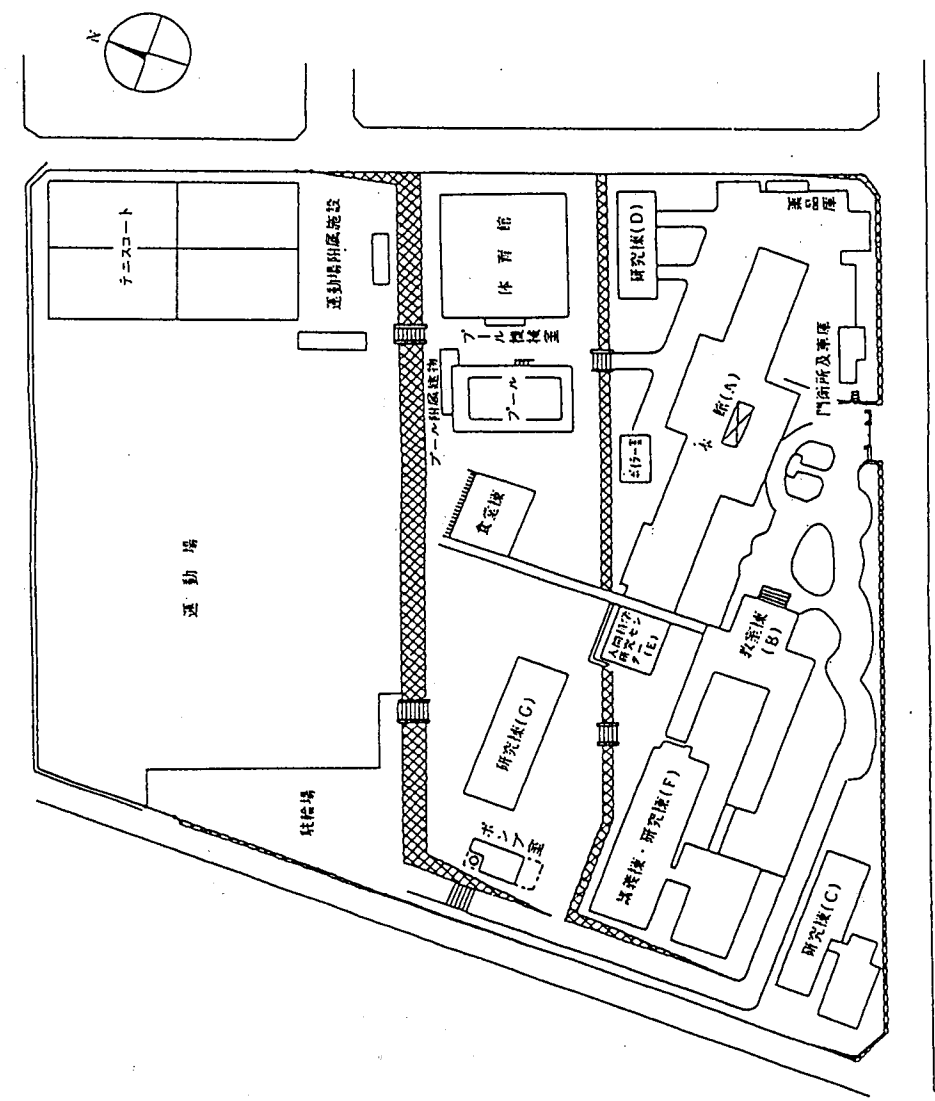
日本スポーツ社会学会
 第7回大会会場(神戸大学発達科学部)案内

発達科学部の位置と交通



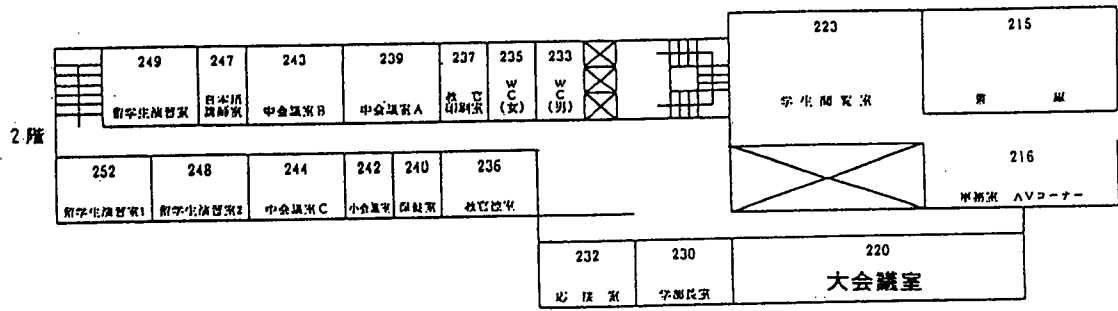
(注) ⑤は、神戸市バス16系統 六甲ケープル下行
 ⑥は、神戸市バス36系統 鶴甲団地行

会場全体図

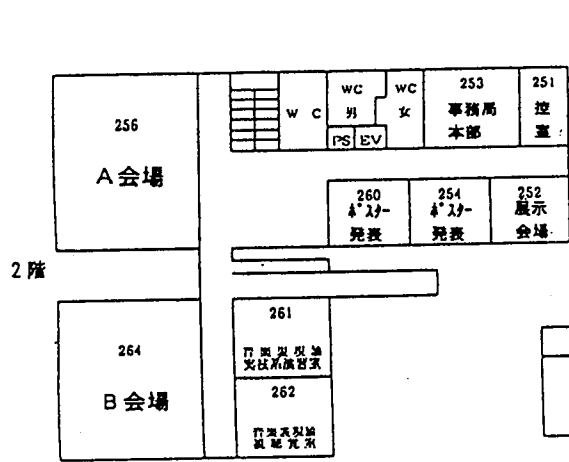


発表会場案内図 (発達科学部A棟・B棟・F棟2階平面図)

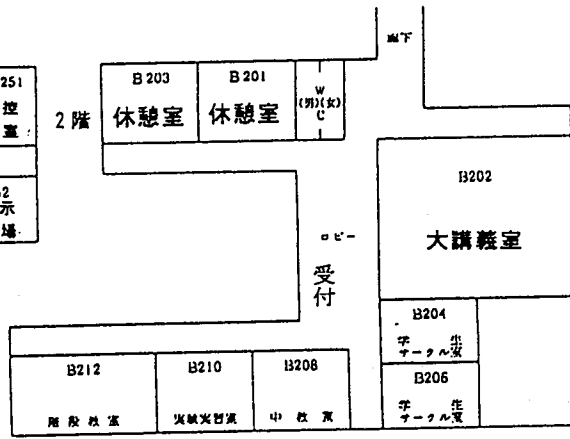
発達科学部本館 A棟



講義棟・研究棟 F棟



教室棟 B棟



注. 大会受付は、B棟2階ロビーにて行います。

《ご宿泊予約のご案内》

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り誠にありがとうございます。御礼申し上げます。
この度、日本スポーツ社会学会第7回大会宿泊をJTB教育旅行神戸支店にてお取り扱いさせて頂くことになりました。ご参加の皆様方の宿泊についてご案内申し上げますので、内容をご確認の上お申し込み頂きますようお願いいたします。
皆様の学会でのご活躍を祈念しつつ、ご来神をお待ち申し上げます。

JTB教育旅行神戸支店 支店長 藤本 桂三

1. 申し込み要項

所定の宿泊申し込み書をご記入の上、下記の要領にてお申し込み下さい。

a) 申し込み先

〒650 神戸市中央区三ノ宮町1-3-1 神戸富士ビル9F
JTB教育旅行神戸支店 担当：立浪・石塚
TEL：078-391-6955
FAX：078-391-1143
営業時間 平日 9:30~17:30
土曜 9:30~12:30
※日曜・祝日は休業させて頂きます。

※郵送又はFAXにてお申し込み下さい。電話でのお申し込みは受付しておりません。

b) 申し込み締切り

平成10年3月10日(火)

c) 宿泊通知

締切り後、3月中旬をめぐりに「予約確認書・振込用紙」を郵送します。

d) お支払

請求書到着後、3月16日(月)までに銀行振込にてお納め下さい。

e) 宿泊料金(どのホテルも1泊朝食付です。)

ランク	ホテル	ツイン	シングル	最寄駅
A	ベイホテル & タワーズ	12,500	15,500	六甲ライナー 7/4ランバート-最寄り徒歩1分
	メリケンバーク オリエントアル		13,500	JR元町駅より 徒歩15分
B	神戸東急イン			JR三ノ宮駅より 徒歩3分
	三ノ宮ターミナル	11,200	12,000	JR三ノ宮駅より 徒歩0分
C	グリーンヒルホテル神戸			JR神戸駅より 徒歩8分
	神戸三ノ宮ユニオンホテル	9,300	10,500	JR三ノ宮駅より 徒歩10分

2. 宿泊等の変更及び取消について

- 宿泊等の変更及び取消は、FAX又は郵便により、JTB教育旅行神戸支店へお申し付け下さい。
- 投宿後の変更は、直接宿舎にお申し出下さい。
- 宿泊の取消(無連絡の不泊を含む)に際しては、下記の取消料を申し受けます。
*「お申し出日」は、お客様からの書面がJTBに到着した日が基準となります。

宿泊取消のお申し出日	宿泊取消料
宿泊予定日の7日前まで	無料
宿泊予定日の5日前まで	1人 1,000円
宿泊予定日の前日まで	1人 2,000円
宿泊当日及び無連絡の不泊	宿泊料金全額

3. 交通のご案内

各地よりの交通手段のお申し込みも受付ます。(通常料金です。)
JRは1カ月前、航空機は2カ月前に手配が始まりますので、できるだけそれ以前にお申し込み下さいませ。

4. その他

郵送、手配通書等に関する費用を平素費として500円頂いておりますので、よろしくお願いたします。

日本スポーツ社会学第7回大会

宿泊申込書

お客様名 学校名		申込日		平成10年 月 日	
代表者名		整理番号		平成10年 月 日	
住所 (所在地)		入金日		銀行	
TEL ()		返金日		支店	
FAX ()		口座番号		普通・当座	
(学 校 名)		ツインの場合のみ (同室者名)		合計金額	
性別		部屋タイプ		22400円	
氏 名		希望ホテル名			
例 交通 太郎		シングル・ツイン			
No 1		交通 太郎			
2					
3					
4					
5					

*ご希望のホテル名、ツイン利用の方は、同室希望者名もご記入ください。
*用紙が足りない場合は、コピーしてご記入ください。

<お申し込み先> JTB教育旅行神戸支店
〒650 神戸市中央区三宮町1-3-1 <担当者> 立浪・石塚
(Tel) 078-391-6955 (Fax) 078-391-1143

編集委員会からのお知らせ

今年度の研究誌『スポーツ社会学研究』第6巻(1998年)の進行状況につきご報告します。

- 1) 今年度の研究誌は： 特別寄稿論文1、会員投稿論文6、研究ノート1、書評4、合計12となりました。会員全員のご協力に感謝します。1月16日段階で初校ゲ

研究委員会からのお知らせ

すでに会報18号で第4期の活動方針「研究活動の推進のために」についてお知らせしてありますが、これに基づいて活動をスタートさせたいと思います。

1. 日本学術会議への登録申請はすでに登録申請の締切りが終わっていますので2年後になります。
2. 科研費の配分枠の拡大等、研究条件の拡大、情報ネットワークの充実などの課題は以下のアンケートで会員の意向をうかがいたいと思いますのでご協力方よろしく。
3. 今後の学会大会等における研究活動の進め方についてみなさんの声をお聞かせ下さい。

●アンケートについて(同封の葉書にご記入の上、3月15日までにご返送ください)

1. 「課題研究」について
学会大会毎に、その時期に見合った学会として取り組むべきテーマあるいは問題を1年前に決定して学会大会に発表し、その成果を(スポーツ社会学研究などに)まとめていくもの。
2. 「宿題研究」について
学会として取り組むべき課題あるいはテーマの内、何人かの協同プロジェクトチームで一定期間、研究した成果を「宿題」という形で学会大会に発表しまとめていくもの。上の「課題研究」に比較して少し寝かせて熟成させる期間を置くもの。
3. 科研費等で学会を中心にプロジェクトを組んで行うことが期待される調査研究について
4. 「現代スポーツ社会学入門」(仮題)の出版についての賛否
5. その他(研究活動推進に関するご意見)

以上の項目を、同封の葉書にて、1~3の項目については2つぐらいのテーマなどをお書きください。4については賛否、手順等についてご意見をお聞かせください。5はなんでもご自由に。

研究は基本的には個人の自由な活動ですので、学会として組織的もしくは集中した研究テーマの設定等については常に自省的(?)でありたいと考えております。しかし今日のスポーツ状況を考えるにつけ個人で取り組めない大きなテーマや、あるいは学会としての社会貢献を考える必要もあるかと思えます。この点も合わせてご意見あればお書き下さい。(葉書にこだわりませんので封書等でも結構です)

(研究委員会 森川貞夫)

ラを著者校に回しました。日程が例年よりやや遅れていますが、これは海外滞在中の会員からの寄稿など新しい要素も含まれたためです。刊行日は例年と同じにすべく編集委員会として努力中です。

- 2) 今年度から導入する新しい点は：かねて予告したとおり英文ページだけを巻末に一括掲載することです。これによって、外国の研究者が本研究誌の内容を把握しやすくなることを意図しています。
- 3) さらに、今年度から本学会のウェブサイトが開設されたことはご承知と考えますが、この点については研究誌でもご案内をいたします。また、英文ページ一括掲載はウェブサイトの閲覧上の便宜にも寄与することが期待されます。

●会員業績リストに関するお詫び

- 1) ご存知の通り研究誌には「会員の業績リスト」が掲載されています。今年3月に刊行予定の第6巻にはこのリストを掲載することができませんでした。これは編集委員会事務局を勉めている私の業務上の手落ちであり、深くお詫び申し上げます。このご依頼は本来「会報」第18号において全会員にお願いすべきものでしたが、多数の投稿論文の整理などの業務に追われてその期を逸したのが原因です。先行研究の検索などで会員の皆さまにご迷惑をおかけすることと存じまことに心苦しく存じます。お許し下さい。
- 2) 第6巻に掲載すべき業績リストは、明年の第7巻に過去2年分の業績として掲載させていただきます。つきましては本年の10月前後にあらためて2年分のお願いを申し上げますので、その際はどうぞよろしくご協力下さいますようお願いいたします。
- 3) 関連して、その際皆さまの業績の英訳を付していただくようお願いする必要があるかどうかを4月以降の編集委員会において検討させていただきます。第6巻から邦文ページと英文アブストラクトのページとを分離いたします。類似学会誌もこの方式を採用するものが相当存在し、かつ日本スポーツ社会学会の研究動向を海外の研究者が一覧する（アブストラクトはこの目的のためと理解されますが）ためには、分離した方が明らかに見やすいという利点があると考えられるからです。この編集委員会決定を実行しますと、それにともない業績リストに英文タイトルの必要があるという論点と、逆にそこまでは必要でないという論点の両方が可能です。いずれにせよ編集委員会においてよく討議していただきますが、この問題に関して会員の皆さまからもひろくご意見をいただければ幸いです。具体的には「学術情報センター」の研究者調書がすでに業績の英訳を求めそれを検索に共していますが、当学会としてその必要性如何というようにご構想下さい。
- 4) また上記リストに収録する業績の範囲などについても特にご意見がありましたらぜひ編集委員会までお寄せいただきたく存じます。当学会ホームページの開設などにともない将来的にはデータベース化が進むことも予想されますので、ぜひさまざまな角度からのご意見をお待ちいたします。

以上、第6巻に関する事前のお詫びと、関連してお願いを数点申しあげさせていただきます。

編集委員会からのご報告は当面以上です。なおこの場を借りて『スポーツ社会学研究』市販部数の拡大につき、会員各位が引き続きご配慮下さいますことをお願いいたします。
(編集委員会 平野秀秋)

国際交流委員会からのお知らせ

今年7月末に開かれる、モンリオールでの国際社会学会・国際スポーツ社会学会でのプログラム案が送られてきましたので、ご紹介します。ぜひ多くの方が参加されますよう、重ねてお願い申し上げます。プログラムにありますように、日本からは菊さんの基調セッションでの発表を始め、計7人が登壇します。これだけの発表が日本からなされるのも始めてではないかと思えます。その他興味深い発表や、普段知ることの少ないアジアやアフリカ、南米からの発表もあって、よく出来たプログラムだと思われれます。ぜひ参加の検討をお願いします。参加の申し込み用紙など必要であれば、Fax番号をお知らせください。Faxでお送りします。参加の締め切り（参加料が安い）日は、3月末です。

(国際交流委員会 小椋博)

ISSA CONFERENCE 1998 PRELIMINARY PROGRAMME

SESSION 1 - MONDAY, 27 JULY 1998

Chairperson: George SAGE, University of Northern Colorado, USA

KEYNOTE SPEAKER: Bruce KIDD, University of Toronto, Canada

"Sociological Knowledges of Sport: Heritage, Challenges, Perspectives"

SESSION 2 - MONDAY, 27 JULY 1998

THEME: CHANGING SOCIOLOGICAL KNOWLEDGES OF SPORT

Chairpersons: Kari FASTING, Norwegian University of Sport and Physical Activity, Norway

Hiroshi KOMUKU, Kagawa University, Japan

Participants:

- Michel JAMET, Universite de Bordeaux 2, France. "Evolutions of the Sociological Approaches of Sport in France".

- Koichi KIKU, Nara Women's University, Japan. "Changing Sociological Knowledges of Sport in Japan".

- Noel DYCK, Simon Fraser University, Canada. "Sociology, Anthropology and Sport Studies: Surveying the Boundaries."

- Nancy MIDOL, Universite de Nice and Yves LE POGAM, Universite de Montpellier, France. "Using psycho-analytical and phenomenological data in the sociology of contemporary sport in France".

- Klaus BERGANDER, The Norwegian University of Sport and Physical Education, Norway. "Sporting Games from The Perspective of Social System Theory".

- Mary G. McDONALD, Miami University and Susan BIRRELL, University of Iowa, USA. "Reading Sport Critically".

SESSION 3a - TUESDAY, 28 JULY 1998

THEME: SPORT AND GLOBAL PROCESSES

Chairpersons: Shona THOMPSON, University of Auckland, New Zealand

Genevieve RAIL, University of Ottawa, Canada

Participants:

- John MAGEE and John SUGDEN, University of Brighton, England. "A Model for Understanding the Globalisation of Football (soccer) and Patterns of Labour Migration".
- David-Claude KEMO KEIMBOU, Universite des Sciences humaines de Strasbourg, France. "Impact of Globalization on National Sport Policies in Black Africa: Cameroon's Case".
- Scott G.GAULE and Benny J. PEISER, Liverpool John Moores University, England. "A Comparative Analysis of National Olympic Success and Gross National Product, of The Summer Olympiads (1968-1996), in Relation to The Changing Global Structure of Sport".
- Lucio de Brito Castelo BRANCO, Universidade de Brasilia, Brazil. "The Sport of the Future. Culture, Citizenship and Integration in the Global System".

SESSION 3b - TUESDAY, 28 JULY 1998

THEME: SPORT AND RELIGION

Chairpersons: Robert PITTER, University of Memphis, USA
Stanislas WANAT, Akademia Wychowania Fizycznego, Poland

Participants:

- Abdul Hafidz Bin Haji OMAR, Queensland University of Technology, Australia. "The Influence of Culture and Post-Colonialism on Muslim Athletes. A Case Study of a Group of Elite Malaysian Muslim Commonwealth Games 1998, Athletes".
- Robert PITTER, University of Memphis and Andriel C. STOEKEL, freelance writer, Memphis, USA. "Sport Delivery, the Open Market and Religion in Memphis Tennessee: Evangelism or Community Service?".
- Michael BURCH, University of California-Davis, USA. "Religion, Sport, and the Male Body: Glorifying Masculinity in the Ancient World and Today".

SESSION 4a - TUESDAY, 28 JULY 1998

PANEL: HOW TO THEORIZE GLOBALIZATION AND SPORT

Chairpersons: Nicola PORRO, Universita di Roma La Sapienza, Italy
Jean HARVEY, University of Ottawa, Canada

Participants:

- Jean HARVEY, University of Ottawa, Canada.
- Peter DONNELLY McMaster University, Canada.
- Jim McKAY, The University of Queensland, Australia
- Joseph MAGUIRE, Loughborough University, England.

SESSION 4b - TUESDAY, 28 JULY 1998

THEME: SEXUAL IDENTITIES AND SPORT DYNAMICS

Chairpersons: Kirsti PEDERSEN, Finnmark College, Norway
Carlos Alberto FIGUEIREDO DaSILVA, Faculdade Da Cidade, Brazil

Participants:

- Brian PRONGER, University of Toronto, Canada. "Outta My Endzone: Sport and the Territorial Anus".

- Jane DUVALL DOWNING, University of Missouri-Columbia, USA. "Negotiating Sexual Identities On and Off the Court: An Ethnographic Investigation of Women in Sport".
- Mary Louise ADAMS, Queen's University, Canada. "Separating the Men From the Girls: Constructing Gender Difference in Figure Skating".
- Denis PARISOT, Universite de Nice, France. "Condescension and Tolerance Facing Sexual Role Transgressions in the Sporting Game: Avatars of the Macho Thought"

SESSION 5a - WEDNESDAY, 29 JULY 1998

THEME: SPORT, WORK AND PROFESSIONALIZATION

Chairpersons: Mari Kristin SISJORD, Norwegian University of Sport and Physical Activity, Norway

Richard GRUNEAU, Simon Fraser University, Canada

Participants:

- Jorid HOVDEN, Finnmark College, Norway. "Why Important Men and Young Women?"
- Ilse HARTMANN-TEWS, German Sport University Cologne, Germany. "Professionalisation and Gender Hierarchies".
- Pasi KOSKI, University of Jyväskylä and Juha HEIKKALA, University of Tampere, Finland. "Towards a Centerless Physical Culture: The Case of Finnish Sports Federations and Associations".
- Kim BERKOVITZ, University of Waterloo, Canada. "From Sport To Active Living: Professionalization or De-Professionalization of Physical Education?"
- Markus LAMPRECHT and Hanspeter STAMM, Swiss Federal Institute of Technology, Switzerland. "Voluntary and Paid Work in Sport".
- Saulius KAVALIAUSKAS and Vilma Cingiene KESTULIS KARDELIS, Lithuanian Institute of Physical Education, Lithuania. "Development of Physical Education and Sport Subsystem in Lithuanian Education System".

SESSION 5b - WEDNESDAY, 29 JULY 1998

THEME: SPORTING SUB-CULTURES

Chairpersons: Bart VANREUSEL, K. U. Leuven, Belgium

Koichi KIKU, Nara Women's University, Japan

Participants:

- Belinda WHEATON, Roehampton Institute, England. "'Just Do It': Consumption, Commitment and Identity in the Windsurfing Subculture".
- Becky BEAL, University of the Pacific, USA. "The Skateboarding Image: An Analysis of the Industry and the Participants' Image Presentation".
- Dan MORGAN, Bolton Institute, U.K. "An Artificial Dilemma: A Consideration of Rock Climbing's Cultural Compromises".
- Otmar WEISS, Gilbert NORDEN, Petra HILSCHER, University of Vienna, Austria, and Bart VANREUSEL, K. U. Leuven, Belgium. "Ski Tourism in Austria: An Analysis of the Ecological Awareness within Different Interest Groups".
- Alan LAW, Trent University, Canada. "Surfing the Welfare Net: Constructing Surfing Sub-

Cultures as 'Dole Bludgers'".

- Peggy ROUSSEL, Universite de Marseille, France. "Bodybuilders Women: Blossoming out or Alienation?"

- Takeshi OKADA, Kagoshima University, Japan. "The Social Construction of Japanese University Sport Club".

SESSION 6a - WEDNESDAY, 29 JULY 1998

THEME: SPORT AND GENDER REPRESENTATIONS (1)

Chairpersons: Margaret MacNEILL, University of Toronto, Canada

David-Claude KEMO KEIMBOU, Universit^e des Sciences humaines de Strasbourg, France

Participants:

- Janet C. HARRIS, Robert M. DEWAR, Sun Yong KWON, and Robert T. CLIFTON, University of North Carolina at Greensboro, USA. "NFL Football on Television: Glimpses of American Hegemonic Masculinity".

- Jeffrey O. SEGRAVE, Skidmore College and Katie McDOWELL, Buffalo College of Law, USA. "Language, Gender, and Sport".

- Toni BRUCE, University of New Hampshire, USA. "From Inaccessible to Public Space: Women Sportswriters' Changing Understandings of Male Locker Rooms".

- Berit JOHNSEN, Norwegian University of Sport and Physical Education, Norway. "Some Epistemological and Methodological Issues Related to Being a Female Researcher in a Male Prison".

SESSION 6b - WEDNESDAY, 29 JULY 1998

THEME: SPORT AND SOCIAL INTEGRATION

Chairpersons: Peter DONNELLY, MacMaster University, Canada

Mait ARVISTO, Talinn Pedagogical University, Estonia

Participants:

- Luis Otavio Teles ASSUMPÇÃO, Universidade de Brasilia, Brazil.

"Football, Mass Culture And Social Integration in Brazil - 1940 AND 1950".

- Giacomo ROBUSTELLI, Universita di Roma La Sapienza, Italy. "Football and Economic and Cultural Integration: The Case of Italy and UK".

- Anna-Katriina SALMIKANGAS, University of Jyvaskyla, Finland. "Involvement, Society and Sport".

SESSION 7a - WEDNESDAY, 29 JULY 1998

THEME: SPORT AND NATIONAL IDENTITIES (1)

Chairpersons: Otmar WEISS, University of Vienna, Austria

Ilse HARTMANN-TEWS, Institute fur Sporthochschule, Germany

Participants:

- Amir BEN-PORAT, Ben-Gurion University, Israel. "Football and Nationality: What Can the Army Do for Both?".

- Thomas B. STEVENSON, Ohio University-Zanesville, USA. "Football Matches and the

Transmission of Symbolic Messages: National Identity Formation in the Republic of Yemen".

- Masumi YAJIMA, Meikai University, Toshio SAEKI, University of Tsukuba, Toshio MAMIYA, Juntendo University, Mamoru SUZUKI, Sophia University, Makoto NAKAZAWA, University of Tsukuba, Japan. "Traditional Sport and Community Identity: A Case Study of Rural Sport in Fuenterrabia, Spain".

- Stephen WAGG, Roehampton Institute, England. "'The Sound of an English Summer': Test Match Special, Social Change and National Identity".

- Jason TUCK, King Alfred's University College, UK. "There's Some Corner of a Foreign Field that is Forever... England, Ireland, Scotland, Wales": Rugby Union, National Identity Politics and the Media 'At Play'.

SESSION 7b - WEDNESDAY, 29 JULY 1998

THEME: SPORT AND THE MEDIA

Chairpersons: Janet C. HARRIS, University of North Carolina at Greensboro, USA

Jim McKAY, University of Queensland, Australia

Participants:

- Wendy L. BOWCHER, Tokyo Gakugei University, Japan. "Context and Institutional Talk: An Exploration of Australian Radio Sports Commentating".

- Algita KAUPAITE, Saulius KAVALIUSKAS and Egidija PORVANECKAITE, Lithuanian Institute of Physical Education, Lithuania. "Sport Information Structure in Lithuanian Media".

- Fabien OHL, Universite des Sciences Humaines de Strasbourg, France. "The Sport in Newspapers as Comments of Everyday Life."

- Terry ROYCE, Teachers College Columbia University, Japan. "The Word and Image in Sports Reporting: The Case of 'Rugby League Week'".

- Timothy DEWHIRST, University of British Columbia, Canada. "Smoke and Ashes: The Regulation of Tobacco Sport Sponsorships in Canada".

SESSION 8a - THURSDAY, 30 JULY 1998

THEME: YOUTH CULTURES AND SPORT

Chairpersons: Joanne KAY, Universite de Montreal, Quebec, Canada

Depei LIU, Jun Institute of Physical Education, China

Participants:

- Bente JENSEN, The Royal Danish High School of Educational Studies, Denmark. "Children and Youth in Competitive Sport: The Influence of the Conditions of Sport on Perceived Competence and Motivation Within Competitive Sport, With Special Emphasis on Context and the Role of the Coach".

- Mari Kristin SISJORD, Norwegian University of Sport and Physical Activity, Norway. "Gender in Snowboard".

- Carlos Alberto FIGUEIREDO DaSILVA, Faculdade da Cidade, Brazil. "Seduction Relationships Between Teachers and Students in the Physical Education and in the Sport".

- M. Claudia PINHEIRO, L. ALMEIDA and J.P. MOREIRA, University of Coimbra, Portugal. "Parent's Influence on Children's Sports Choices - Gender and Traditional Masculine and Feminine Sports".
- Margaret MacNEILL, University of Toronto, Canada. "Navigating Adolescence: The Employment of Sport and Fitness Media As a Subcultural Resource for Teenagers".

SESSION 8b - THURSDAY, 30 JULY 1998

THEME: SPORT, SYSTEMS AND POLICIES

Chairpersons: Michel JAMET, Universit* de Bordeaux 2, France

Klauss HEINEMANN, Universitat Hambourg, Germany

Participants:

- Eleni THEODORAKI, Loughborough University, England. "Researching the Making of the British Academy of Sport: Strategic Decisions and Government Policies".
- Ian P. HENRY and Pantelis NASSIS, Loughborough University, England. "Political Clientelism and Sports Policy in Contemporary Greece".
- Christine DULAC, Universite de Marseille, France. "The Analysis of a Local Policy Using the Theories of Organization Sociology: The Case of Grenoble: Thirty Years of Sports Policy (1965-1995)".
- Daniel Gustavo de la CUEVA, E.GES. Estudio de Gestion Deportiva, Argentina. "From Olympia to Catamarca: Heritage, Perspective and Challenge".
- Bart VANREUSEL and Marijke TAKS, Katholic University of Leuven, Belgium. "Sport For All? A Critical Appraisal of 25 Years of Sport Democratization".
- Nicola PORRO, Universita di Roma La Sapienza, Italy. "The 'Fourth Citizenship': Sport for All in Western Europe".
- Bjarne IBSEN, University of Copenhagen, Denmark. "Sport and the Welfare Society: The Development of Sport Between State, Market and Civil Society".

SESSION 9a - THURSDAY, 31 JULY 1998

THEME: VIOLENCE AND INJURY IN SPORT

Chairpersons: Lim BURN-JANG, Seoul National University, Korea

Peggy ROUSSEL, Universite de Marseille, France

Participants:

- Joseph MAGUIRE and Stephanie ROBERTS, Loughborough University, U.K. "Pain/Injury/Diet Issues in Elite British Female Gymnastics".
- Mads LIND, University of Copenhagen, Denmark. "Aggression, Violence and Social Relations in Danish Team Sports".
- Simon GARDINER, Anglia Polytechnic University, U.K. "It's a Man's World: Attitude Survey of Violence in English Professional Soccer"
- Laura ROBINSON, free lance writer, Toronto, Canada. "Sexual Abuse in Ice Hockey".
- Rodrigo Fraga MASSAD, Universidade de Brasilia, Brazil. "Ethics and Rupture of Control in Brazilian Soccer".

SESSION 9b - THURSDAY, 31 JULY 1998

THEME: WOMEN'S SPORTS AND CHANGING SOCIETIES

Chairpersons: Gertrud PFISTER, Institut fur Sportwissenschaft, Germany

Markus LAMPRECHT, L&S Sozialforschung und Beratung AG, Switzerland

Participants:

- Shona M THOMPSON, University of Auckland, New Zealand. "Sport: Something to Laugh About".
- Kirsti PEDERSEN, Finnmark College, Norway. "Globalization of Local Culture: A Study of Wilderness* Experiences and Changes in Women*s Lives in Alta, Northern Norway".
- Dong JINXIA, Strathclyde University, U.K. "Gender Relations in Chinese Sports: Continuity and Change of Traditional Gender Culture".
- Genevieve RAIL and Melisse LAFRANCE, University of Ottawa, Canada. "Feminism Versus Postfeminism: University Women, Sport, and Ideology".

SESSION 10a - FRIDAY, 31 JULY 1998

THEME: SPORT AND POWER

Chairpersons: Takayuki YAMASHITA, Risumeikan University, Japan

Anouk BELANGER, Simon Fraser University, Canada

Participants:

- Richard GRUNEAU, Simon Fraser University, Canada. "Sport, Power and the Politics of Spectacle".
- John HORNE, Moray House Institute, U.K. "Structuration Theory, Sport and Power".
- Anouk BELANGER, Simon Fraser University, Canada. "Sport, Power and Nostalgia".

SESSION 10b - FRIDAY, 31 JULY 1998

THEME: SPORT AND GENDER REPRESENTATIONS (2)

Chairpersons: Eliane PERRIN, Universite de Geneve, Switzerland

Toni BRUCE, University of New Hampshire, USA

Participants:

- Melisse LAFRANCE and Genevieve RAIL, University of Ottawa, Canada. "Colonizing the Feminine: Nike's Intersections of Postfeminism and Hyperconsumption".
- Inge Kryger PEDERSEN, University of Copenhagen, Denmark. "Athletic Career: Modern Strategies Among Female Top Athletes".
- Lone FRIIS THING, University of Copenhagen, Denmark. "Gender and Emotions in Sport".
- Joan Marian FRY, Charles Sturt University, Australia. "Construction of Identity Among Girls in Physical Education".
- Suzanne LABERGE and Isabelle MOREAU, Universite de Montreal, Quebec, Canada. "Social Logics and the Construction of Gender Identity: Resistance to Sport Involvement and to Healthy Lifestyles Among Adolescents Girls".

SESSION 11a - FRIDAY, 31 JULY 1998

THEME: SPORT AND NATIONAL IDENTITIES (2)

Chairpersons: Joseph MAGUIRE, Loughborough University, U.K.

Takeshi OKADA, Kagoshima University, Japan

Participants:

- Ian McDONALD, Roehampton Institute London, U.K. "The politics of Sporting Nationalism in Contemporary India: A Case Study of the Rashtriya Swayamsavek Sangh".
- Ken KIRKWOOD, Queen's University, Canada. "The Role of the Montreal Canadiens in the Rise of Quebecois Nationalism".
- Iddo NEVO, Hebrew University, Israel. "Sports Institutions and Ideology in Israel: The Development and Change of Israeli Sports".
- Titus TENGA, Norwegian University of Sport and Physical Education, Norway. "Olympic Games and Tanzania's Ideology of *Ujamaa*: The Interplay Between the Global and the Local Culture".
- Darcy C. PLYMIRE, Appalachian State University, USA. "The Big Red Machine and the Bomb: Steroids as a Metaphor for Nuclear Weapons".

SESSION 11b - FRIDAY, 31 JULY 1998

THEME: SPORT EVENTS AND SPECTATORS

Chairpersons: Pasi KOSKI, University of Jyväskylä, Finland

M. Claudia PINHEIRO, University of Coimbra, Portugal

Participants:

- Arnulf KOLSTAD and Petter BJORNSEN, Norwegian University of Science and Technology, Norway. "Sport Spectators and their Value Systems".
- Arnulf KOLSTAD and Petter BJORNSEN, Norwegian University of Science and Technology, Norway. "The consequences of the Olympic Games on the Host City Residents' Value Systems".
- Lee VANDER VELDEN, University of Maryland and Laurence CHALIP, Griffith University, USA. "Audience Reaction to the Olympic Games: Winter 1992 thru Winter 1998".
- Arnulf KOLSTAD, Norwegian University of Science and Technology, Norway. "Does the Olympic Games Promote Mutual Understanding and Internationalism or Ethnocentrism and Nationalism?"
- P. TRABAL, M. AUGUSTINI, P. DURET and P. MIGNON, I.N.S.E.P., France. "Mutations in the Sport Spectacle and its Social Constraints".

SESSION 12a - SATURDAY, 1st AUGUST 1998

THEME: POSTMODERN SPORT FORMS IN PRACTICE

Chairpersons: Robert RINEHART, California State University - San Bernardino, USA

Melisse LAFRANCE, University of Ottawa, Canada

Participants:

- Bob RINEHART, California State University, USA. "The X Games Fan: Fear and Loathing in San Diego"
- Joanne KAY, Universite de Montreal, Quebec, Canada. "Extreme Sport, Gender and Risk".

- Mark STRANGER, University of Tasmania, Australia. "The Aestheticization of Risk-Taking and the Postmodern Sublime".

SESSION 12b - SATURDAY, 1st AUGUST 1998

THEME: THE BODY AND SOCIOLOGICAL KNOWLEDGES OF SPORT

Chairpersons: Nancy MIDOL, Universite de Nice, France

Ryozo KANEZAKI, Saga University, Japan

Participants:

- Kari FASTING, Norwegian University of Sport and Physical Activity, Norway. "Top Female Athletes -- How We See Our Bodies".
- Gertrud PFISTER, Freie Universitat Berlin, Germany. "Sturdy or Graceful? Body Concepts of Female Gymnasts and Football Players".
- Nicole LIDDON and Guenther LUESCHEN, University of Alabama at Birmingham, USA. "Body Perception, Appearance and Sport Participation".
- Helene SOTO, Universite de Marseille, France. "Uses of the Body in Working-class Town".
- Nina WAALER LOLAND, The Norwegian University of Sport and Physical Education, Norway. "The Male Body - Ideals and Realities. A Study on Satisfaction and Concern with Physical Appearance among Physically Active and Inactive Norwegian Men".

SESSION 13a - SATURDAY, 1st AUGUST 1998

THEME: SPORT IDENTITY AND INVOLVEMENT

Chairpersons: Lee VANDER VELDEN, University of Maryland, USA

Christine DULAC, Universite de Marseille, France

Participants:

- Bingshu ZHONG, Beijing University of Physical Education, China. "Performance Capital and Status Attainment: Sport and Social Mobility Among Chinese Elite Athletes".
- Chris STEVENSON, University of New Brunswick, Canada. "Motive Talk as Rhetoric-of-Failure".
- Wayne F. MAJOR, University of Nevada Las Vegas, USA. "The Benefits and Costs of Serious Running".
- Masashi KAWANISHI, Takahiro KITAMURA and Haruo NOGAWA, National Institute of Fitness and Sports, Japan. "Sport Involvement, Exercise Identity and Quality of Life of Middle and Senior Aged Participants at the National Sports and Recreation Festival in Japan".
- Yasuo YAMAGUCHI, Kobe University, Takashi TOHI, Kobe University of Commerce Akira TAKAMI, Kansai International University, Japan. "Assessing the Relationship Between Quality of Life and Sport and Leisure Activities: A Comparison Between the Middle-aged and the Elderly".
- Ryozo KANEZAKI, Saga University, Japan. "The Results and Issues of the Studies on Sport Commitment and Sport Involvement in Japan".
- Makoto NAKAZAWA, University of Tsukuba, Toshio SAEKI, University of Tsukuba, Toshio MAMIYIA, Juntendo University, Mamoru SUZUKI, Sophia University, Masumi

YAJIMA, Meikai University, Japan. "The Status Preservation Strategy of Sport Events: A Case Study of the Master Golf Tournament".

SESSION 13b - SATURDAY, 1st AUGUST 1998

OPEN PAPERS

Chairpersons: Suzanne LABERGE, Universite de Montreal, Quebec, Canada

P. TRABAL, I.N.S.E.P., France

Participants:

- Bob CHAPPELL, Brunel University, England. "An Examination of the Racial Composition of Women's and Men's Basketball Teams in the Top Divisions of the English National Basketball Leagues 1996/97".

- J. Douglas TOMA, University of Missouri-Kansas City and Michael CROSS, University of Michigan, USA. "Intercollegiate Athletics and Student College Choice: Further Exploration of the Impact of Championship Seasons on Undergraduate Applications".

- Jay R. MANDLE and Joan D. MANDLE, USA. "Justice and Cooperation in Professional Team Sport".

事務局からのお知らせ

1) 前号18号の訂正/追加とお詫び

前号18号の記事内容で以下のような誤りと追加がありましたので、訂正の上、お詫び致します。

- ・ 5頁1行目 -- (誤) A会場「スポーツ批判」 → (正) A会場「スポーツ批評」
- ・ 11頁の「審議事項」 -- 会費滞納者の取り扱いについて
「再入会は、未払いの会費が支払われたことを確認の上、理事会で承認する」を追加

2) 新入会員の申し込み手続きについて

日本スポーツ社会学会に入会を希望する方は、「入会申し込み書」(今号より会報の最終ページに添付しております)に必要事項をご記入の上、事務局までご返送願います。同時に年度会費の納入を「郵便振り込み用紙」にてお願い致します。

会費は、正会員は5,000円、学生会員は3,000円です。また、紹介者(推薦人)は、規約第3章第5条の会員資格を得るために必要な事項ですので、必ずご記入を願います。紹介者(推薦人)は会員であることが条件です。

これらが済んだことが事務局で確認できましたら、会員として当学会に登録されます。それ以降は、機関誌「スポーツ社会学研究」及び「スポーツ社会学会会報」が配布されると同時に、それらへの投稿が可能となります。

3) スポーツ社会学研究のバックナンバーの販売について

「スポーツ社会学研究」第3巻～第5巻を事務局で次の料金で現在販売しております。

第3巻は2,000円、第4巻、第5巻は本体定価1,900円(+消費税)です(第1巻、第2巻は残念ながら在庫が切れております)。また、第4巻からは市販化となりましたが、これは現在のところ事務局にも在庫があり、会員価格として本体価格は八掛け

(1,520円+消費税=1,596円)でお求め頂けます。代金は振り込み用紙により会費と同時に振り込んで頂いても、それとは別に同じ口座に振り込んで頂いても結構ですが、その際には「第～巻購入希望」等と、その旨を振り込み用紙の通信欄に明記して下さい。代金の振り込みがこちらで確認され次第それらを送付致します。

- ・ 郵便払い込み先: 加入者名-日本スポーツ社会学会事務局
口座番号-00390-0-43962 (赤色の払込用紙をお使いください)

4) 会報への投稿について

会員みなさまに、本会報を「情報交換の場」としても活発にご利用いただければと思います。つきましては、電子メール、ファックス、郵送にて、会報担当(松田)まで以前にもましてどしどし情報提供、投稿いただけますようお願いいたします。お待ちしております。

(事務局 菊幸一、松田恵示)

国際スポーツ社会学会 1997年シンポジウムの報告

北海道教育大学旭川校 前田和司

昨年の国際スポーツ社会学会シンポジウムは、6月28日から7月1日まで、ノルウェーのオスロで行われました。会場となったのは、オスロ郊外にあるノルウェー体育・スポーツ大学です。同大学は、ノルウェー唯一の体育大学で、いわゆる近代スポーツに加え、ノルウェーの伝統的な生活文化であるフリルフツリフ(オープン・エア・ライフ)、およびノルウェー独自の運動文化であるイドレットの研究・教育を行っています。

また、ノルウェー・トップ・スポーツ・センターが隣接しており、同国のオリンピック委員会の事務所もそこに置かれています。様々な運動施設を備えた敷地の裏にはきれいな湖があり、その奥にはさらに広大な森が広がっています。夕方ともなればオスロ市街から数多くの市民が行列をなして訪れ、湖の周囲の遊歩道や、その奥に広がるハイキング・コースで、散歩やマウンテン・バイクを楽しんでいました。その光景は、「体力づくり」という言葉では説明できません。彼らはただ、自然の中に身を置くためだけにやってきているようでした。

さて、そのような国ノルウェーで行われた今回のシンポジウムは、メイン・テーマ「組織、文化、スポーツ～束縛と可能性～」で、参加者約100名、キーノート・スピーチを含め73の発表がありました。日本からは、香川大学の小椋博先生、筑波大学の松村和則先生、そして私の3名の参加でした。

オスロ地方の民族衣装に身を包んだカリ・ファスティング女史の司会で始まった開会式は、スピーチの合間に、フォークダンスのパフォーマンスを織り交ぜながらの、華やかで楽しいものでした。今回が初めての参加だったので、けっこう緊張していたのですが、その和やかな雰囲気のおかげで、すぐにリラックスすることができました。見回してみると、ジョセフ・マクガイア、ジョージ・セージ、ピーター・ドネリー、ジョン・ロイなど、おなじみの顔も見えます。そして何よりも、若い研究者の参加が多かったことが印象

的でした。

キーノート・スピーチは、以下のとおりです。

- ・ギンナー・ブレイヴィク（ノルウェー）「社会的価値のキャリアとしてのスポーツ」
- ・マーガレット・C・ダンカン（アメリカ）「グローバル化する文化～テレビとインターネットにおけるスポーツ・トークとジェンダー～」
- ・トレヴァー・スラック（イングランド）「変わりゆくボランタリー・スポーツ組織の本質～機会と束縛～」
- ・ショナ・M・トンプソン（ニュージーランド）「金ではなく愛のために～スポーツ文化におけるジェンダー化された労働～」

4日間の日程の間、全部で10のセッションに分かれて、プレゼンテーションがありました。テーマと発表数は以下の通りです。

- ・スポーツとマスメディア（6題）
- ・スポーツ、国家、アイデンティティ（11題）
- ・スポーツの場と環境（6題）
- ・ボランタリー組織（12題）
- ・スポーツとユースカルチャー（6題）
- ・スポーツ、健康、傷害（6題）
- ・スポーツとジェンダー（5題）
- ・スポーツと価値 ～歴史的、哲学的、社会学的パースペクティブ～（6題）
- ・サッカー（5題）
- ・スポーツと経済（6題）

すべてのセッションを聞くことはできませんでしたので、私の関心のあったセッションの紹介だけでお許しいただきたいと思ひます。

ちょうどこの時期、フィンランドでアウトドア・アクティビティによる観光開発の研究をしていたこともあって「スポーツの場と環境」というセッションに注目していました。日本スポーツ社会学会でも、スポーツと環境の問題についての発表がいくつかありましたが、まだひとつのセッションを設けるだけの関心を集めるまでには至っていないように思ひます。そんなわけで、大いに期待していたのですが、6題あった発表のうち2つは、スポーツの場についての研究であって、「環境」とは全く関係のないものでした。

続いて、松村先生のBeyond the Dichotomy of "Development or Conservation": The commercial exploitation of Japan's precious mountainous area、そして小椋先生のEnvironmental issues and the Nagano Winter Olympic, A long dispute over downhill ski courseの発表があり、あとの2つはBart Vanreusel(Belgium), Environmental awareness in alpine skiing, an exploratory survey, Otmar Weiss (Austria), Ski tourism in Austria: A comparison of ecological awareness between locals and touristsでした。期せずして4題ともがアルペンスキーに関するもので、しかも日本から2題の発表となりました。

松村先生はスポーツ開発の場となる地域に焦点を当て、小椋先生は滑降スタート地点をめぐる長野オリンピック委員会と国際スキー連盟の議論の経緯を紹介しました。

VanreuselとWeissは共同研究で、オーストリアのスキーリゾートにおける、ツーリストと地元住民の環境認識に関する調査の報告でした。それぞれが、アルペンスキーをめぐる環境問題の異なる位相を照らし出しているように思ひました。

ただし、シンポジウム全体を通じて感じられたことでもありますが、発表時間が20

分と短く、しかも参加者の多くにとって外国語である英語で発表しなければならないことが、各研究の細部にわたる説明を困難にしているようでした。各国の異なる状況を理解するには、20分はあまりにも短すぎます。日本とオーストリアにおけるスキー場開発は森林限界の違いなどによって、かなり違った形態をとっているはずですが、また、アルペンスキー発祥の地と、それを輸入してきた日本とでは、スキーそのものの捉え方も違うでしょう。それらによって、人々がその開発を環境問題として「問題化」する程度も異なってくると思ひます。残念ながら、限られた時間の中では、そこまで知ることはできませんでした。

でもこのシンポジウムを情報交換の場としてみれば、大変に刺激的なものだとも言えます。実際、発表が終わったあと、共同研究の相談を持ちかける場面を多く見かけました。また、発表や質疑は英語で行われましたが、そのことについては大変寛容なシンポジウムでした。つまり、私のように英語に自信のないものでも、発表してみようかという気にさせてくれる雰囲気があったということです。そのかわり、発表の方法は大変工夫されていて、スライドやOHPを効果的に使っていたのが印象的でした。

その他にも、魅力的なエクスカッションやパーティーが催され、いつの間にか、たくさんの研究者と言葉を交えるようになっていました。国が異なっている、同じスポーツに関わってきた者同士。最後の晩のパーティーで、どこかで聞いたことのあるメロディーに合わせ、ISSAを体で表しながら踊るところなど、やはり「……会系」なんだなど、妙に納得してしまいました。

1998年のシンポジウムはカナダのモントリオールです。国際社会学会に併せて開催されるようです。日本スポーツ社会学会の会員の皆様も、ぜひ参加してみることをお勧めします。（残念ながら、発表の受付は昨年11月で締め切られてしまいました。私の原稿が遅くなったため連絡ができませんでした。すみません。）

アジアスポーツ社会学会（1997年）の報告

呉大学社会情報学部 小谷寛二

昨年（1997年）、11月22日から25日の4日間、中国の北京体育大学でアジアスポーツ社会学会が開催された。この学会は、アジアのスポーツ社会学の開催と発展を目的とし、21世紀におけるアジアスポーツの発展に対する新しい挑戦に向けて、アジアにおけるスポーツ社会学者のコミュニケーションと連携の機会をつくることにある。今回のテーマは、「21世紀におけるアジアのスポーツ：その社会的発展とスポーツ」であった。なお、使用言語は中国語・英語であった。

11月22日、受け付けが始まり、11月23日、午前、開会挨拶に続き、Xie Qionghuan, 中国体育科学学会会長およびISSA副会長のBurn-Jang Lim（ソウル大学、韓国）によるInviting Speech、午後、影山健（愛知教育大学名誉教授、日本）、ISSA会長のJoseph Maguire（Loughborough大学、当日Ren Hai、中国による代読）およびLiu Depei（ISSA理事、中国）の3名によるInviting Speechが行われた。一般研究発表は11月24・25の両日（2会場）におこなわれ、25日の午後、市内観光をした。

Inviting Speechの内容を簡単に紹介しておきたい。

○ Xie Qionghuan（中国体育科学学会会長）：“スポーツの現状と未来——環境を破壊しない開発の視点から”

環境を破壊しない開発理論は世界的な話題であるが、スポーツ世界においては、その取

り組みが遅れている。より多くの関心更なる研究がこの分野に寄せられることを望んで、3つの面からこの開発理論を論じている。1) 環境破壊しない開発理論が緊急に必要である背景 2) 21世紀のスポーツ発展の理論的基礎としての開発理論の必要性 3) 環境破壊しない開発と競技スポーツとの関係。この理論の形成はいろいろな社会問題、特に環境問題の原因についての人類の理性的思考の結果である。急激な経済発展と生態学的環境破壊の現状から、スポーツの更なる発展のためには環境を破壊しない開発理論の構築が必須である。つまり、経済だけでなく、精神と物質の両世界が等しく重みをもつ、経済・社会・環境・人類・資源などの包括的な開発を考えることが必要である、と論じられた。

○ Burn-Jang Lim (ISSA副会長) :

韓国におけるスポーツ社会学の状況を、歴史的視点から、年代順にしたがって紹介された。

○ Joseph Maguire (ISSA会長、) :

すべてにおいてグローバル化してしまっている。グローバル化は西欧化と同じようにみられてきた。西欧社会が支配をしてきたが、西欧社会が勝利することを意味していない。西欧文化は近代スポーツ以前から非西欧文化の影響を受けてきた。西欧スポーツに反発したり、新解釈をしたり、彼ら独自のレクリエーション的スポーツを維持し、育んで世界的な規模で推進しているものもある。各自の固有のスポーツ文化が混ざり合わさって新しいものが出てきている。グローバルスポーツ構造とか組織とかは、イデオロギー・パフォーマンスにおいて西欧が勝利したその度合いを強調しすぎることも可能だが、一方、非西欧文化も、西欧文化に抵抗したり、彼ら自身のレクリエーション的なスポーツを維持したり、育てたり推進したりしている。

ホモゲニティ、ヘテロゲニティの両方を調べる分析を採用することによって、研究者は今おこっている世界的な規模の文化の混合を探查できる。未来を考えると、スポーツ社会学研究は、つぎのことを指し示す。スポーツの内容・意義・管理・組織やイデオロギーに関する19世紀的、20世紀的概念に意義を挟む異なる文明圏に関してスポーツはまずまず、論議を呼ぶようになるだろう。このような論点を調べることに、スポーツ社会学者は、地球規模の人間が置かれている人類の状況の重要な面を拾い出すことができるだろう、と論じられた。

○ Liu Depei (ISSA理事、中国) :

中国におけるスポーツ社会学の未来と歴史について、従来の暴力・ドーピング・政治との関係などの従来の社会的な問題に比べてクオリティオブライフ、スポーツフォオールが出現し、スポーツ社会学が寄与できる。中国は計画経済から市場経済に変わったためにそれに合わせて社会改革が行われているがスポーツも例外ではない。スポーツの改革と中国の発展にスポーツ社会学の理論が責任を負っている。具体的にはスポーツタレントの市場問題、市場経済という環境の中でのスポーツ・フォア・オール推進の問題、女性や少数民族の問題、スポーツの経営の問題。これらをリフォームするのに、スポーツ社会学は必要である、と論じられた。

○ 影山健 (日本) : "日本におけるスポーツ社会学の現状と課題"

批判的スポーツ社会学の立場から、日本スポーツ社会学の現状と課題についてつぎのような点について述べられた。(以下の文は景山会員自身の原稿による。)

1) 何が問題か

現在、日本の社会は、自由な社会であると考えられている。しかし、私たちが今行っている愛知万博反対の署名活動などを通して見る限り、必ずしもそうとは思われない。人々は多くの"しがらみ"の中で生きていて、実際は自由に発言できないような状況に置かれている。しかし、人々は自由だと思っている。このような社会—管理社会—の中で、スポーツがどのような役割を果たしているのかが、スポーツ社会学にとっては基本問題である。

2) 日本におけるスポーツ社会学研究の現状

日本のスポーツ社会学は、1950年の日本体育学会の結成および1962年の体育社会学専門分科会の設立以来、大きな発展を遂げてきている。1991年には、これらの組織とは別に、「日本スポーツ社会学会」が組織された。現在スポーツ社会学研究のために、様々な方法が用いられているが、最近論文等によく出てくる人はつぎのような人である(略)。これからもわかるように、研究が多様化し深大化してきていることは確かであるが、問題は多くの研究が批判的というより、解釈学的であるということである。

3) スポーツ社会学研究の課題

問題は、管理社会の中で、スポーツがどのような役割を果たしているかである。最近スポーツは、"するもの"というより"見るもの"になってきている。それが「大衆化」の実相である。このことからわかるように、スポーツは、現代管理社会の中で、その補完的役割を果たしていることは明らかである。このことについて今後より一層の研究が必要であるが、現代「スポーツ社会学」もその一翼を担っているという反省が必要である。ここで問題は、管理社会と「スポーツ」との相互マイナス方向への循環(悪循環)をどう断ち切っていくかである。この悪循環の構造をより認知できるようにしていくためには、反「スポーツ」あるいは反「管理社会」の立場に立つことである。ここで一つの提案がある。それは『アジアスポーツ憲章』(仮称)をみんなの共同作業としてつくることである。このことは、アジアの体育・スポーツ理論の復権作業であると同時に、その作成過程において、スポーツや現代社会に対する議論が最も深まることが期待できるからである。

また、一般研究発表は、2日に渡って、2会場に分かれて総計50の演題発表が行われた。発表時間は10分の発表と5分の質疑応答であった。内容としては、日本側からは小谷寛二(呉大学)「社会実験としてのEポート(交流ポート)運動」、原田奈名子(佐賀大学)「アジアつまり身体世界への回帰」の2題のみであった。(堀健二、名古屋文化学園も参加)外国からは、Richard Light(クイーンズランド大学、オーストラリア)「オーストラリアのエリート選手における身体資本と日本の高校ラグビー選手との比較」1題のみであった。中国側の発表演者のテーマを列挙すると、・・スポーツとスポーツ文化、中国におけるスポーツ人口の判定水準と見積もり、中国におけるスポーツ文化研究の歩みと将来、中国人の養生思想の精粹と社会的スポーツの特質、中日近代スポーツ接受の比較、中国ドラゴンボート文化の社会的特色、中国雲州伝統歌舞に見る文化遺産の特色、中国競技スポーツの職業化と体育教育、業績資本と地位の獲得—中国エリート競技者のスポーツと社会的流動性の研究、北京および上海におけるサッカーファン現象の分析研究、3方面視野下の中国におけるスポーツフォオールの研究、現代中国における大衆スポーツ発展のための戦略的概念、中国の新時代における"超"大衆スポーツ文化発展のための戦略、中国新時代におけるスポーツフォオール発展に関する研究、中国新時代における大衆スポーツの発展的特色、中日における太極拳の社会的調査および分析、レジャースポーツと現代中国社会、実施中の全人民健康トレーニング計画について、全人民健康活動への時空的要素、大都市における市民身体活動の発展と健康推進計画の促進について、中国21世紀

スポーツ才能のトレーニングに関する考察と提言、中国の高校体育推進の社会的発展に対する効用、学校スポーツのスポーツフォールにおける効用、生涯スポーツと高校体育教育の改革、個々のスポーツ行為発現課程における教育効果に関する研究。・・・などが特徴としてあげられる。なお、確認している訳ではないが、中国は広すぎるからか発表者の欠席がかなりあった。

さて、この学会がどこでどのように進められてきたかは知らない。景山会員はこの間の事情をよく知っておられそうだ。いきさつについて、あまり詳しいことについてはご本人から聞いていないが（どうでもいいことなので）、アジアのスポーツを考える場が必要ではないかということで、北京で開催される運びとなったようである。ちょうどこの開催の1週間前ぐらいに全中国体育学会が同じ北京体育大学で開催されている。景山会員・森川理事の名前でこの学会の発表・参加への紹介があり、当初は日本からもかなりの人が参加申し込まれていたようである。その後、この学会の様子について、E-mailなどで問い合わせがあったように思う。日本経由で海外からのInviting Speechの問い合わせがあったりして、性格がわからないなどの行き交いがE-mailを通じてあった。結果的には取り消しがあったようである。私としてはアジアであるということで、是非ともスポーツ環境への提言をしたいために、語学の弱みも省みず、何とかして、まず、中国のスポーツ社会学者へ訴えたいばかりに出席することにしていたのでその辺のところはどうでもよかった訳である。費用は、関西空港発北京行き往復で62,000円（景山会員のお世話）、滞在・参加費1日90ドル（3日半分）ということで、安い参加費用であった。

50才も過ぎて、外国語のひとつでも会話できないものが、どうしてあのような冒険をすることができたのか不思議でならない。訴えたいことがあればなんとしても通じるであろうと言うことが先決であったように思う。Competition Sport, Sport for Allなどの、これら2者択一的なオルタナティブなスポーツとは違った3極に位置するもので、身体の癒し、身体の開放、意味の多義性、生活地域からにじみ出るスポーツ文化、祝祭性などのコンセプトおもつGreen Sportの提唱と、仮説をたて、合意形成を図りながら、積み上げ方式で、スポーツ文化を生成する社会実験という方法論を駆使し再構築されつつあるE-Boatをアジアの人々に訴えたかった。腹を決めてからはOHPによる発表資料づくり、英文のフルペーパーづくり、と大変だった。なにしろしゃべるのはいいが、質問されると困るわけである。どんな質問をされようと訴えたいことを言えばいいわけだからと、質問回答も英文で用意しておけばいい。実際質問がつきからつきへとあったわけだが、あらかじめ用意しておいたものを述べればいいのかである。

ところが、今回の発表でわかったことだが、中国は広いからか、発表演者の欠席が多く、当日、外国の発表者は最後に回され、しかもせっかくだからと、時間を超えてしようとなってしまった。なんとということだ。早く終わって欲しいという心の訴えもむなしくようになってしまった。確か、こちらが用意していた回答文の弾もつきたとき、座長をしていたオーストラリアのリチャードさんが、助け船を出してくれた。かれは何年前に日本の高校生のラグビー指導にきていたので関西弁の日本語が堪能であったのである。彼は「小谷の発表は完全にわかったから、フロアからの質問に答えて良いか」というのである。「頼みます。」「オーケー」ということで、そのリチャードさんが私にかわって、答えてくれたのである。こんなハプニングが起こるのである。世界は広いとはまさにこのことを言う。

それにしても、一般発表の初日から、座長になっていたのには驚いた。プログラムを手

渡されるまではわからなかった。演者が発表した後、アジアスポーツ社会学会組織委員会主任委員によるサイン入りの証明証を座長が渡すのである。演題を申し込んでも取り消しがあるからであろうか。10分の発表は短い、そのときに「プアーン！」ともものすごいブザーが鳴る。とてもじゃないが厚かましく続けられない。質疑の応答に入るにふさわしい音である。この質問時間5分の活発なこと。演者は一度答えだしたら止まらない。身振り手振りよろしくものすごく自信たっぷりに蕩々と述べ出す。

景山会員の中国での活躍は目を見張るものがある。会場でも、ホテルでも次々と関係者が尋ねてくるし、中国国家体育関係者の実力者もこられる。この何年間は、学会でも景山会員とお会いすることがなかったが、中国の若いスポーツ社会学者をこれまで私費で世話してこられたようである。今年西安体育大学の客員教授として赴任されるようだ。Inviting Speechでも拍手が一段と凄かった。改めて景山会員の中国との架け橋の力に敬服した。

来年は、韓国で開催することを、Limさんが引き受けられたらしい。韓国代表の即決はいつもながら凄い。そのつぎは日本が期待されている。スポーツ社会学会も考え時のようだ。そんなことは知らないよというより、時期がそうやってきているような気がする。日本で学んだ中国の留学生がいかに多いか、日中友好姉妹校の大学がいかに多いか、また、日本に留学を志して日本語を勉強しているスポーツ社会学者の多いこと。こうした現実を直視して思うに、日本留学後のケアの問題、友好大学間の研究交流などの継続の問題などのためにも、アジアスポーツ社会学の交流連携と、設立の必要性を考えさせられた。もちろん韓国や多くのアジアとの関係もそうである。E-MailによるSOSネットで「アジアスポーツの共同研究」の呼びかけがあったが、そのような時期にきているような気がする。スポーツ社会学会理事会でも是非検討していただきたい。

25日のレセプションでは、小谷・原・堀の3人が「四季の歌」を歌ったのをきっかけに、Lim副会長がカラオケを歌い、日・中・韓・豪のカラオケ大会、ダンスが始まり、参加者みんなでディスコに興じ、床が抜けそうになって終わったのは、非常にアジア的であったということでしょうか。

研究通信

英国短期在外研究便り

和歌山大学 大倉 秀介

英国では9月8日までロンドンにいましたが、John Horne氏と連絡が取れただけでした。ダイアナの事故死とその後の葬儀やそれをめぐる英国民、王室、ジャーナリズム、首相などの反応から今の英国社会の状況の一端を知る機会に恵まれました。

9月8日から23日にかけてエジンバラに滞在し、John Horne氏には大変お世話になりました。ただ彼の職場も財政難から改組・合理化（統合などを含む）の会議や新学期の準備で忙しく、お互いに似たような状況に置かれているということがわかり変なところで同感しあいました。また彼の職場の研究仲間が調査で出かけていて会うことができず、結局、彼一人でいろいろ説明や案内をしてくれました。ただし、エジンバラ大学の社会学科の研究會にUCバークレーのスポーツ社会学者のLoic Waquant氏が来てBoxing in Americaについて報告するのを聞く機会に恵まれました。

John Horne氏は、LSA (Leisure Studies Association) の国内学会で日本のレジャーに関する報告にも出かけたりして忙しいのに、家族で食事に招いてくれたり、休日にNew Lanakへ連れていってくれたり、観光局の資料をもらってきてくれて、大変世話になりま

した。小生としては新しい友人ができた気分で、すっかりうれしくなりました。

9月23日からは、ブライトンに移り、アラン・トムリンソンの帰国を待っていましたが、イーストボーンで10月2日ようやく連絡が取れ、翌日から1週間あまりをChelsea School Research Centerで部屋をもらって過ごすことができました。幸いなことに、彼の研究センターのスタッフが新しい建物 (Trevin Towers Annex) に移転集合して最初の顔合わせパーティーに出席することで学科長はじめ主なメンバーに紹介してもらうことができました。アラン・トムリンソン氏は、見かけよりも気さくな人で、はじめからファーストネームで呼び合おうと言い、彼のことをアラン、私はHideといって他のメンバーに紹介してくれました。



(Brighton Univ. Chelsea School Research Center)

彼の同僚で Reader の Dr. John Sugdenとも親しくなりました。彼は、福岡ユニバシアードでサッカーのコーチとして来日したことがあり、コネチカット大学で米国のボクシングに関するエスノグラフィックな研究で学位を取ったアイルランド人で、アランと一緒に近々Who Rules the People'Game:FIFA and the contest for the world Football, Polity Press, 1997を出版するそうです。

ODで学位論文準備中の若い研究者、サッカーのグローバリゼーションについてのいくつかのタイプ別のインテンシブな調査研究者 John Magee、クリケットを対象にスポーツとraceの関係を扱っている Benn Carrington:父親はアフリカ人で母親は英国人、若者(特に女性)とメディアとスポーツの関係をテーマにしている女性研究者 Gill Line、ドイツ人でスポーツの政治学をEUの範囲でやっている Udo Merkelなどとも会って、いろいろ話ことができました。彼らは各自研究室を持ち授業も担当していました。

アランは、休暇が終わり主任教授として授業や研究プロジェクト、原稿執筆等で忙しいのに、図書館の主任やLSAの事務局の女性にも連絡をとって私の案内を頼んでくれたり、カルチュラル・スタディーズとフィギュレーション社会学の関係についての話や彼の論文のコピー・著書を提供してくれました。さらに、近くの高校 (Cavendish) の先生のチームとChelsea Schoolのサッカーの試合に誘ってくれ、私はサポーターで見ていたのですが、アランやジョン・スグデンは若い研究者と一緒にフィールドでヘッドイングなどもふくめてプレイヤーとして走りまわっていました。試合前にアランに「大丈夫か」と言ったら「4年ほどやっていないので、わからん。が、25年ぐらいのキャリアはあるから」という返答でした。試合が始まると、相手とバッティングすれすれのヘッドイングを果敢にやるほどハッスルしていたのには、驚きました。結果は、3:0の勝利でした。

試合終了後、イーストボーンの旧市街にあるパブ(700年の歴史がある?)で、乾杯のビールを傾け、負けた相手のチームの一人が「もっと友好的に試合をすべきだ」といったことをサカナに、ハッスルして相手に体当たりをしていた若手の Bennが「にこにこ笑いながらゲームなんかできるか」と主張、それに対して「相手の言い分もわかる」と他の同僚

が反論し、しばらく侃々諤々の議論、アランは横でにこにこしながら「今度は理屈のゲームだな」と言って中立をきめこんでいました。その後、インド料理のレストランへ繰り出し、そこでも飲んだり食ったりしながら夜遅くまでわいわいやって、解散後若い人がクルマでホテルまで送ってくれました。アランは、酔っぱらっているのでブライトンの家まで列車で帰るといってイーストボーンの駅前でクルマを降りていきました。試合会場の高校に、立派な芝生のサッカー場が2面あるのにもびっくり、さすがサッカーの本場だけのことはあるなあと感心しました。

あまり研究成果のあとが見られない、とりとめない報告になりましたが、私の初めての英国滞在は、小さなトラブルはありましたが町でもホテルでも大学でも多くの親切な人々に出会え、とても楽しい2ヶ月でした。

*大倉秀介会員は国際シンポを契機に昨年9月より11月までアラン・トムリンソン、ジョン・ホーン両氏のもとへ短期留学されました。このような国際交流の展開を願う大倉会員のご承諾のもとにここで留学時の手紙を掲載させていただきました。

(研究委員会 山下高行)

新入会員

氏名	〒	住所	☎・FAX	所属
大山 幸成				和歌山大学大学院
赤堀 方哉				神戸大学大学院
國本 明德				東京YMCA社会体育専門学校
永吉 宏英				大阪体育大学
高畑 幸			(FAX兼用)	大阪市立大学大学院

住所・所属変更

氏名	〒	住所	☎・FAX	所属
阿部 耕也				静岡大学
團 琢磨 亀山 有希				(財) ロングスティ財団
志岐 幸子				早稲田大学大学院博士課程

氏名 〒 住所 ☎・FAX 所属
 大山 智徳
 土肥 隆
 中江 桂子 千葉大学文学部

入会申し込み書

(※事務局へご返送願います)

編集後記

連日、メディアは長野五輪の話題でもちきりです。今年に入ってからというもの、低迷する日本経済、「ナイフ」に荒む子どもたちの問題など、暗いニュースが続いていただけに、スピードスケート、ジャンプなどでの日本選手の活躍を伝えるメディアに、ぼくたちは「ホッ」と一息ついているようです。もちろん、ナショナリズムとキャピタリズムが複雑に交差し、1例をとっても、パワー、コロニアリズム、エスニシティ、はたまたジェンダー、エコロジーなどなど、様々な現代社会が抱える問題群と関わり合う側面を抜きにして、もはやオリンピックを語ることはできません。けれども、「ホッ」と一息という、メディア・イベントとしてのスポーツが持つ「チェンジ・オブ・エア」--とでもいった特性を、こうしたスポーツに価値や意味や感情を与える作用としての社会を前提したうえで、ぼくたちがそれを豊かに受けとることができうる、その可能性の条件とははたしてどのようなものなのでしょう。か。「祭りの後の静けさ」の質がそろそろ気になり始めています。

第19号をお届けします。神戸での学会大会が目前に迫ってきました。プログラムの詳細をゆっくりとご覧いただければと思います。 (k. M)

日本スポーツ社会学会会報 第19号
 平成10年2月25日発行
 日本スポーツ社会学会事務局
 (奈良女子大学文学部内)

●学会への連絡、および入退会、住所・所属変更、会費納入、その他各種手続きに關しましては以下までお願いいたします。

日本スポーツ社会学会事務局
 〒630-8263 奈良市北魚屋西町 奈良女子大学文学部内
 事務局長 : 江刺 正吾
 庶務・会計 : 菊 幸一

郵便振替口座番号 : 00390-0-43962
 加入者名 : 日本スポーツ社会学会事務局

●会報への投稿に關しましては以下までお願いいたします。

〒662-0961 西宮市御茶家所町6-42 大手前女子大学文学部
 会報担当 : 松田 恵示

ふりがな	会員種別 (どちらかを○印で囲む)
氏名:	正会員・学生会員
紹介者: (推薦人) ※必ず明記してください	専門分野:
勤務(所属)先:	
勤務(所属)先住所: 〒	
TEL () FAX ()	
連絡先住所: 〒	
TEL () FAX ()	
E.mail:	

大修館書店

〒101-8466 東京都千代田区神田錦町3-24 電話03-3294-2221代
価格は税別です。

図説 スポーツの歴史

《世界スポーツ史》へのアプローチ

稲垣正浩・野々宮徹・寒川恒夫・谷釜正 著
人間にとってスポーツとは何か。歴史的視点からその「現在」と「世界性」を問う。オールカラー
▼B4変型判・264頁 本体18,000円

テニスの源流を求めて

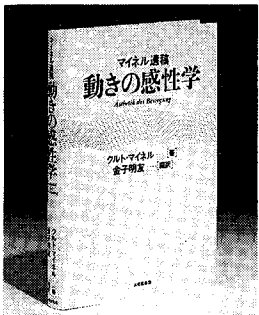
表 孟宏 編著
謎の多いテニスの源流解明に光をあてた、関係者待望の書。未だ不明なテニスの起源と源流を解明した基本的な外国文献7篇を初邦訳。「日本への伝来」も加えて集大成。
▼A5判・468頁 本体4,200円

マイネル遺稿 動きの感性学

クルト・マイネル 著 金子明友 編訳
動きの感性教育の重要性と必要性を説いた遺稿を、生誕百年を記念して運動学の第一人者が世界に先駆けて邦訳。
▼A5判・162頁 本体2,600円

戦後日本のスポーツ政策

—その構造と展開—
関春南 著
混沌とした現代スポーツの現状をあざやかに解剖し、21世紀へ向けて、あるべきスポーツ政策を提示した待望の書。
▼A5判・600頁 本体5,000円



体育学講義シリーズ

スポーツ社会学講義

森川貞夫・佐伯聰夫 編著
▼菊判・266頁 本体1,800円

現代社会とスポーツ

P・C・マツキントッシュ 著
寺島善一・岡尾恵市・森川貞夫 編訳
▼A5判・240頁 本体1,748円

現代スポーツ批判

大野晃 著
▼四六判・234頁 本体1,600円

日本のスポーツ環境批判

中村敏雄 著
▼四六判・256頁 本体1,600円

現代スポーツ論

—スポーツの時代をどうつづけるか—
中村敏雄・出原泰明・等々力賢治 著
▼四六判・306頁 本体1,800円

スポーツ産業論

松田義幸 著
▼A5判・262頁 本体2,300円

平成10年3月発行

曾凡輝・王路徳・邢文華 他著／関岡康雄 監修・譚 璞 訳

スポーツタレントの科学的選抜

A 5判 予価 4000円

中国のスポーツが世界的に躍進したのはなぜか？
タレントの科学的選抜に焦点を当て、その歴史的経緯、選抜方法、組織管理等について詳細に分析！ 日本スポーツ界への提言の書!!

[目次]

- 第一章 中国におけるスポーツタレントの科学的選抜の概観
- 第二章 スポーツタレント選抜の科学的基礎
- 第三章 スポーツタレント選抜の手順
- 第四章 スポーツタレントの科学的選抜の指標と評価基準
- 第五章 選抜指標の測定網則
- 第六章 スポーツタレントの科学的選抜の組織と管理

平成10年3月発行

身体教育のアспекト

身体運動文化学会編

A 5判 予価 2200円

- | | | |
|--|---|---|
| <p>第1章 スポーツ
スポーツの思想
スポーツと心身
スポーツの歩みと今
現代社会とスポーツ
生涯スポーツ
女性とスポーツ</p> <p>第2章 武道
武道の思想
刀剣の思想
武道のあゆみ
 武道概略
 剣道史</p> | <p>柔道史
弓道史
現代社会と武道</p> <p>第3章 舞踊
舞踊のあゆみ
舞踊の思想
現代社会と舞踊
現代の舞踊</p> <p>第4章 身体運動の心理
身体運動の心理学的意味
障害者とスポーツ
加齢と身体運動
スポーツ競技の心理
スポーツ傷害の心理</p> | <p>第5章 身体運動の生理
身体運動のためのエネルギー
身体運動を支える生理機能
身体運動に影響を及ぼす因子
身体運動にかかわる課題</p> <p>第6章 体力とトレーニング
体力
体力トレーニング</p> <p>第7章 健康と運動の理論
命と健康
身体と健康
健康と運動処方</p> <p>第8章 コーチング論</p> |
|--|---|---|

トランポリン・シャトル競技

塩野 尚文 著
本体 2000円

トランポリンとは

- I. トランポリンの歴史
- II. 器具
- III. 特徴と価値

トランポリン・シャトル競技

- I. トランポリン・シャトル競技の
おいたち

- II. トランポリン・シャトル競技の歴史
- III. トランポリン・シャトル競技の競技規則
- IV. 種目の制限（なぜ、38種目なのか）
- V. 練習の進め方
- VI. シャトル競技のための実戦訓練
- VII. 競技内容の実際
- VIII. 参考資料
- IX. 種目の図解と説明

〒171 東京都豊島区高松 2-8-6

道 和 書 院

TEL (03) 3955-5175
FAX (03) 3955-5102